

新聞読者欄原稿(2026年3月5日)

津波被害の焦点は西条市

越智元郎

2月16日に発表された、愛媛県による南海トラフ地震の新被害想定は私には大きな驚きであった。県内20市町のうちで最大の被害が予想されていたのが西条市で、津波による死者数、建物倒壊による死者ともに最多となっていた(新居浜市は前者が3位、後者が2位)。私は地震から長い時間を置かずに津波が襲来する南予地域の津波犠牲者が多いと思い込んでいたため、地震による地盤沈降のため早期に浸水が始まる東予地方や、人口の多い松山を含め、沿岸地域では全県的に津波に対する備えが必要であると考え直した。

今回の想定は冬の深夜に発生した地震で、地震直後に避難を開始した人の割合を46%弱と仮定して死者数を試算した。この直後避難率を100%とした場合でも全県で2000人以上が津波で死亡するという。高齢者や身体の弱い人には深夜真っ暗な中での避難は容易ではないだろう。避難をためらったために屋内で溺れたり、避難途中で津波に流されることへの備えとして、手近に救命胴衣や浮き具になるものを備えたい。要支援者やこれを支援する民生委員などへの救命胴衣の配布にはぜひ、自治体予算の支出をお願いしたい。